

Q11 高校では、保健室等登校をしても授業に出席しないと進級できないことがあると聞いていますが、実際はどのような指導がなされているのでしょうか。

現 状

- 1 高校での進級判定や卒業判定は、設置学科により必修単位等がそれぞれ異なるので、単位認定等もそれぞれ異なっている。
- 2 高校は義務教育ではないので、高校で求める必要単位を、生徒が修得しなければ進級、卒業は認定されない。
- 3 不登校や保健室等登校の生徒がいる現状を踏まえ、高校でもそれぞれの生徒の状況に応じて個別指導などを実施しているところがある。

考えられる対応例

- 1 生徒が進学する高校の状況については、中・高連絡会等を通して、中学校の教師も十分に理解をする必要がある。特に、高校で保健室等登校になった場合、高校ではどのような個別支援を行っているのか、また実際にどのような事例があったのか、具体的に説明を受けることが大切である。
- 2 中学校での進路指導においては、成績にのみ左右されることなく、生徒の適性や将来の職業への希望を大事にしながら、通学の利便性や学費、保護者の意向等も総合的に考慮して適切な進路選択ができるようにする必要がある。したがって、学級活動や職場体験学習等の進路に関する学習を通じて自己理解や様々な職業についての理解を深めさせたり、教育相談等を通じて進路決定を促したりすることが大切である。
- 3 高校では、入学した生徒の自己実現を支援するため、必要な学習指導、進路指導、生徒指導、保健指導等が行われている。不登校になったり、保健室等登校になったりした生徒がいる場合は、担任を中心としながら、教育相談を実施したり、個別の対応計画に基づいて個別指導を行ったりしている。
- 4 高校では、保健室等登校生徒の学習に対する意欲や、保健室における生活及び学習の取組の状況を、十分に検討し、個別指導を実施して、進級の条件を満たすことができるように支援している。
十分な個別指導を行ったにもかかわらず、当該生徒が進路変更を希望する場合は、生徒の自己実現のために必要な情報と進路選択の機会を提供している。

